

こどものための リトミック

教室のご案内 1・2・3・4・5歳

表情見たいじゃない！
そっぴんぱん



特定非営利活動法人

リトミック研究センター

大事な幼児期だからこそ、良い教育を

人が生きていくには、「人との関わり」が大切です。親子・兄弟・幼稚園・保育園・学校・会社など、どのような環境においても「人対人」が基本となります。既に、お道具の貸し借りや順番を待つ、お話を聞く、助け合う心、豊かな感受性を育てたいなど、どのようにしたら我が子に教えられるのだろう、と悩んだことがあるかもしれません。リトミック研究センター「こどものためのリトミック」認定教室は、お母さまやお友だちと音楽や音にふれあいながら、実生活に自然と反映される年齢別カリキュラムでレッスンを行っています。柔軟な吸収力が豊富な幼児期に、お手本となる講師や保護者の方が一緒に子どもたちの気持ちを汲みながら、最大の愛情で包み込み、お子さまの成長を一緒に見守りましょう。

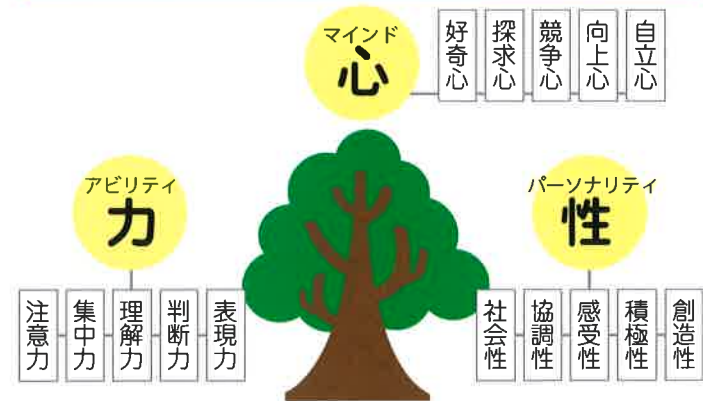


リトミック研究センター「こどものためのリトミック」認定教室のレッスン

リトミック研究センター「こどものためのリトミック」認定教室は、全国に約1300教室ございます。

この全国の認定教室は、主に指導資格を保有する講師が運営しています。「知識やテクニックを身に付ける学習」が多い中、音楽の基礎を身に付けながら子どもたちの将来に備えて「知識やテクニックを身に付けるための基礎能力や人格形成を目的とした教育」を行っています。

人格形成の三要素



聴く → 考える → 判断する → 表現する
聞く → 行動

～どうぞ、お子さまと一緒に体験してみませんか～

認定教室の共通点

- ① 潜在的能力の発達を促していくカリキュラム
- ② 年齢別リトミック教具
- ③ 少人数制のグループレッスン
- ④ 指導資格を保有する講師

リトミックで行われる「音楽遊び」には、正しい知識や理論が必要です。一見、「お遊戯」や「ダンス」のように見えますが、決められた形で身体を動かすのではなく、自分で考え判断し表現します。この自主性を尊重するスタイルが、子どもたちの個性を伸ばしていきます。

身の回りで起こることをどんどん吸収していく

STEP

1

1～2
歳児

4月2日現在
満1歳のお子さん



この時期の子どもは、真似っこをしながら様々なことを身に付け、成長していきます。お母さんが楽しいと思うことは、子どもも楽しいと感じます。また、他の子どもと自分の子どもの成長を比較しがちですが、成長はそれぞれですので、しっかりとご自分の子どもを見守りましょう。

親子でお友だちや先生とふれあい、音楽に慣れ親しみます

子どもたちにとって、温かくていい匂いのするお母さんのお膝の上が一番居心地の良い場所です。この時期、子どもたちの健全な成長に欠くことのできないのは、濃密な親子の触れ合いです。

お母さんの愛情ある眼差しと、子どもたちの澄みきった瞳が交差し、お母さんの腕の中で子どもたちは身の回りで起こるいろいろな出来事をどんどん吸収していきます。「こどものためのリトミック」では、やがて来る一人立ちの時期に慌てることのないように、そのような親子の触れ合いを、音楽と動きを通じてサポートしていきます。

子どもの「探究する感覚」を刺激し、見て聞いて触れて、あるがままの世界を体験させる手助けをします。



【リトミック研究センターの教具とは】 心を育むためのツールです

教本・教具など指導ツールには、わが国における半世紀にもおよぶリトミック研究の成果が盛り込まれています。子どもたちの精神的・身体的発達を十分に考慮し、子どもたちの声を反映させて開発された指導ツールは、現在も時代に合わせた改定・改良が重ねられています。

STEP

2

2~3
歳児

4月2日現在
満2歳のお子さん

旺盛な好奇心であらゆる力が蓄えられていく



好奇心が旺盛になった子どもたちにとっては毎日が新しい冒険の連続です。そんな子どもたちを見守り、どのような新しい世界が待っているのか、どのような助けが必要か、お母さんは先生と一緒に答えを見つけましょう。



これまでに体験した感覚を少しずつ整理していきながら、様々な能力の芽生えをサポートします。

いろいろな活動の体験とグループ学習の素地づくりをします

見るもの聞くものすべてが初めての子どもたちは、いろいろなものに対する旺盛な好奇心で頭の中はいっぱいです。この頃に経験（体験）した事柄は、無意識のうちに子どもたちの心の中に蓄えられていき、あらゆる力の芽生えと成長に大きな影響を与えていきます。

「こどものためのリトミック」では、少しずつお母さんへの依存度を低減させながら、リトミックのゲーム性に重点を置いて、音楽のいろいろな要素を経験し、集団生活の中でのルールが存在と、それを順守する大切さを指導していきます。



【リトミック研究センターの「ことば」とは】身の回りのものに興味を持たせ、ことばの発音を促します

ことばの獲得は人間としての成長に等しく、記憶が2~3歳頃から始まるのも、ことばを覚え始めるのがその頃だからなのです。リトミック教材では、身近にあるものを絵やパズルにして興味を持たせ、語る、読む、書くという基本を培います。さらに、リトミックならではのリズム指導が、ことばの獲得をサポートします。

蓄えられた力が芽生え始める

STEP

3

3~4
歳児

4月2日現在
満3歳のお子さん



ごっこ遊びの中で子どもが使う「言葉」や「しぐさ」が私にそっくり!と思うことはありませんか?今日までお母さんをお手本に学んできた成果ですね。「できた!」→達成感「もう一度!」→学びの意欲など、子どもが自信をつけていく姿を大切にしましょう。



芽生えようとしている能力を、上手にコントロールできる力を引き出します。

人として生きるために必要な、根幹的能力の芽生えを促します

自我が芽生えてきたこの時期から、やりたいことややりたくないことをハッキリ主張し、大人を悩まし始めます。子どもたちの主張の多くは、正当な根拠（大人から見た論理性）が存在するわけではなく、本能や感情のおもむくままに支配されていることが多い、とされています。

「こどものためのリトミック」では、よりよく生きていくための力=理解力や判断力の芽生えを促すと同時に、感情を上手にコントロールするための自制心、協調性を、グループ活動を通じて養います。レッスンの効果が目に見えて現れていくのもこの時期からです。



【リトミック研究センターの「数」とは】数の概念を育て、理想的な思考を促します

「数」は非常に抽象的な概念です。しかし成長に応じて子どもたちは数に代表される理論的な思考力を身に付けていくことが要求されます。リトミック教材による音楽遊びの中で楽しく無理なく、数と不可分な関係にあるリズムを通じて数の概念を育てます。

STEP

4

4~5
歳児

4月2日現在
満4歳のお子さん

さまざまな能力の下地ができあがる

3歳までと比べて精神的に大きく成長する時期。子どもたちは楽しいレッスンだけでは満足せず、課題に真剣に取り組み、さらに先のことを考えて行動している様子などは、レッスンを継続してきたからこそその成果と成長なのです。



音楽的能力の基礎作りをしながら、感覚と理解と行動のバランスを整えます。

芽生えた能力をさらに伸ばし、それらを上手に制御できる心を育みます

お母さんの手から完全に離れて、お友だちと行動を共にすることで、大人の目線とは違った子どもたちのルールや秩序が形成されています。この頃になると、集中力や思考力などの基本的な力や、その力を発揮させるための表現力や行動力、自己をつかさどる積極性や自主性などがほぼ出揃ってきます。もちろん、音楽的感性の下地も十分に出来上がっています。

「こどものためのリトミック」では、リトミック指導のあらゆる要素を活用して、それらのバランスを整えながら、すべての力をさらに伸ばしていきます。



【リトミック研究センターの「感覚」とは】全身を使った表現活動が、さまざまな能力を引き出します

自由な活動と表現が、お遊戯などと違うことがリトミックの特長。音楽を注意深く聴いて身体表現をしたり、教具を用いて指・手・腕を使って活動することは、「注意力」「集中力」「理解力」「創造力」などを養います。

さまざまな対応力が身につく

STEP

5

5~6
歳児

4月2日現在
満5歳のお子さん

いろいろな人格を持った人たちで形成される社会と同様、レッスンでは「自分だけが出来ればよい」という考えでは成り立たない「子どもたちの社会」が必要です。仲間と協調しながら取り組むことが、レッスンの中で自然に発揮されていることを、先生と一緒に発見しましょう。



4歳までに培った音楽や様々な能力の基礎の上に、この年齢に相応しい個性豊かな人格形成を図るため創意工夫する力を育みます。

能力をバランスよく整え、年齢にふさわしい個性豊かな人格の形成を図ります

子どもとはいえ、もう立派に“人”と言えるまでに成長してきました。一年後には小学校へ入学し、すべてにわたって責任を持った行動が求められます。子どもだけの世界から一般社会へのデビューを迎えることになるのです。

「こどものためのリトミック」は、就学前児童としての締めくくりとなります。より高度なリトミックの活動を通じて、人だけが持つことのできる美徳である自尊心や自律心、自立心、感受性や包容力を養い、周囲からのあらゆる刺激に対して柔軟に対応できるだけの社会性や順応性も育みます。



【リトミック研究センターの「音楽力」とは】身の回りのいろいろな音を通じて、音楽的な基礎能力を培います

音楽する力は本来誰もが持っているもの。ただし人間の可能性を決定する幼児期に、いかに正しくしかも自然な形で音楽に触れるか否かで音楽力は決定します。リトミックのレッスンは、「音楽の学習」といった姿勢ではなく、のびのび遊びながらリズムや音感などの基礎能力が自然に身に付いていきます。リトミック教材は音楽を「見て」「さわって」理解できる工夫がなされています。

世界的なリトミック

リトミック(仏:Rythmique /英:Eurythmics)は、スイスの音楽家・教育家であるエミール・ジャック＝ダルクローズ(1865～1950)が創案した音楽教育法です。児童心理学・大脳生理学などを基盤としており、音楽の基礎能力を高めるだけにとどまらない「総合的な人間教育」としてのあり方が、その後の音楽家をはじめとする芸術家や教育者たちに多くの影響を与え、全米各国へ普及し

ていきました。リトミック研究センター「こどものためのリトミック」は、音楽学習の導入にとどまらず、人格形成の基礎の段階で幼児の集中力とそのエネルギーを十分に引き出そうと考えられており、創始者エミール・ジャック＝ダルクローズの指導理念を受け継ぎながら、我が国の幼児教育事情にマッチさせています。



「フリー百科事典ウィキペディア日本語版」(<http://ja.wikipedia.org/>)より

リトミック研究センターとは

リトミック創始者エミール・ジャック＝ダルクローズの指導理念に基づき、日本における子どもたちへのリトミック教育の普及を目指し、当時の国立音楽大学教授 板野平氏(1928～2009)を顧問に迎え、岩崎光弘により1988年に「いつでもどこでも だれでも このすばらしい教育を受けられるように」と願って創設。2002年には内閣府よ

り認証を受け、特定非営利活動法人となりました。本部事務局には、教員養成校とともに研究室、付属教室「こどものためのリトミック」を併設し、リトミック指導の調査・研究を続けています。リトミック研究センターは、次の主要4事業を通じて未来を担う子どもたちの育成に努めています。

- 優れたリトミックの指導者育成
 - 教員養成校
 - ディプロマAコース
 - 指導者養成コース<月例研修会>(全国各地)
- 「こどものためのリトミック」教室の全国展開
- リトミック指導法の研究と研究成果の提供
- 広報活動

講師はリトミック指導資格の取得者です

リトミックは指導理論が確立されていて、教室で行われる“音楽遊び”にも全て理論で裏付けされた意味が込められていますので、“遊ばせ方”にも正しい知識と技術が必要です。幼児教育が盛ん

な昨今、「リトミックのような指導」もよく見かけますが、少しばかりリトミックを応用したというレベルでは教育としては不十分です。リトミック研究センターの講師は、リトミックを幼児教育の

学問として学び、研鑽し、指導ノウハウをしっかりと身に付けた指導資格の取得者です。わが国の教育事情をふまえながら正統的リトミック指導をきっちりと実践していきます。



板野和彦

リトミック研究センター会長
明星大学教育学部教授

人間らしく育てるゆとりを

集中力、創造力、思考力、そして、美しいものに素直に感動できる心。これらの情操感覚は、ほとんどが幼児期に完成されるものです。この大切な時期に、子どもたちに優れた教育に触れさせる機会を与え、純粋なものを見つめる力を養うことは、きわめて重要なことと言えるでしょう。

先生やお母さんが必死に教え込むのではなく、子どもたち自身が、のびのびと生活を楽しむこと。日本の教育が、目先の効果を求める傾向になる今日、人間らしく育てるゆとりを、私たちが持たなければならぬと思います。

国立音楽大学教育音楽学科II類卒業後、ただちに渡米。ニューヨーク・ダルクローズ音楽学校にてリトミックを学び、ライセンスを取得。帰国後、すぐにリトミック研究センター教員養成校の講師となり、わが国におけるリトミックによる教育の広がりとニーズの高まりを感じ取る。青森県と長野県の短期大学にて幼児教育におけるリトミックを指導しながら、さらに明星大学大学院にて、修士論文・博士論文とともに、リトミックと教育に関するテーマに取り組んだ。現在、リトミックの子ども達の成長に及ぼす可能性を研究すると同時に、リトミック指導者の育成に力を注いでいる。



杉本明

リトミック研究センター本部研究室長
白百合女子大学講師

次世代を担う子どもたちのために

私たちが生きていく上で欠かせない能力=集中力・想像力・創造力・判断力・思考力等、情操感覚のほとんどは、幼児期に形成されていきます。リトミックは、音楽の基礎能力を育むだけでなく、これらの能力を上手く引き出してあげることが真の目的です。「この大切な幼児期に1人でも多くの子どもたちがリトミックに触れて、将来、社会人として存分にあらゆる能力を発揮できるようになって欲しい」これは<リトミック研究センターの願い>です。今日における日本の教育の現状を考えると、次世代を担う子どもたちにとってこの教育法が大きな役割を果たすと確信しています。

国立音楽大学教育音楽学科II類卒業後、東京都立養護学校教諭、国立音楽大学附属小学校教員など、多くの子ども達の指導を経て、1988年に設立されたリトミック研究センター東京第一支局長・チーフ指導者に就任。長年に渡り、全国各地の研修会や、リトミック研究センター教員養成校講師として指導者の育成に力を注いできた。2008年にはスイスをはじめとするヨーロッパ諸国におけるリトミック教育の現状を視察するため渡欧し、日本におけるリトミック教育のさらなる普及の必要性を実感。現在もリトミック研究センター理事・本部研究室室長として指導者の育成に努めるとともに、「こどものためのリトミック」指導法の調査・研究・開発を行っている。

教室をお探しの方は



<http://www.eurhythmic.or.jp/>

リトミック研究センター

検索



特定非営利活動法人

リトミック研究センター

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-7-8 東南新宿ビルディング 2F TEL.03-5354-3891

Watch on Facebook

